



2021 ねん

2・3 がつごう



しもうまとしょかん こどもしつはっこう

2がつ のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	△11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	△23	24	25	26	27
28						

3がつ のカレンダー

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	△20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

- としょかんのおやすみの日
- △ 午前9時～午後5時までの開館
- おはなし会の日 午後3時30分から
- ※2月、3月の水曜日のおはなし会は感染症の防止のためおやすみの予定です。
- ※あかちゃんおはなし会と、土曜日のおはなし会はおやすみです。

○3月4日は館内整理日でお休みです
 ※おはなし会の再開などについては未定です。

*図書館に来る前にホームページなどでご確認ください。



冬から春へ — 「春一番」とは? —
 2月から3月はじめは、冬から春へと季節が変わる節目です。
 春のはじまりの日とされる立春は節分のつぎの日にあたります。立春を
 すぎて最初にふく、南のほうからの強い風を「春一番」といいます。
 はじめは漁師の人たちが使っていたことばですが、今では天気情報などでも
 使われるようになりました。
 *くわしく知りたいときは、下に紹介した本などをお読みください!
 ☆『かこさとし こどもの行事しぜんと生活 2月のまき』(小峰書房) J38茶
 ☆『かこさとし こどもの行事しぜんと生活 3月のまき』(小峰書房) J38茶

ゆき 雪やこおりのふしぎ

みなさんの住んでいる東京ではあまり雪は積もりませんね。
 おうちの人と一緒にゆきだるまを作ったことがありますか？
 日本の北の地方や高い山々の地方には、冬になると毎日のように雪が降り積もる「雪国」
 があります。家の玄関よりも高いところまで雪が積もっているのをテレビでみた人もいるか
 と思います。
 では、なぜ冬になると雪が降ったり、氷が張ったりするのでしょうか？

雪や氷について書いてある本を読んでみよう！！



『雪と氷の大研究-白く美しいふしぎな世界 固体の水のひみつをさぐろう！-』片平孝著
 神田健三監修 (PHP 研究所) J45 緑
 雪や氷は水がかたまってきた姿です。雲の中にある「ちり」が、同じように雲の中にある小さな水のつぶと一緒にになって氷に変わり、だんだん六角形になります。これが「氷晶」で雪のもとになっているのです。あたたかい季節なら地面に落ちてくる間に雨に変わります。

『お天気博士になろう！③雨と雪の大研究』日本気象協会監修 (ポプラ社) J45 緑
 雪のふるしくみがくわしく書かれていて、雪の結晶をつくる実験なども載っています。雪の結晶は虫メガネでまかなもようまできちんと見えます。手にのせるとすぐ溶けてしまうのでセーターや手ぶくろ (白くないもの) に乗せて見てみましょう！



『雪の結晶ノート』マーク・カシーノ作 ジョン・ネルソン作 千葉茂樹訳 (あすなろ出版) E 緑青
 雪の結晶は雲の中に入っている小さな「ちり」が中心になって出来ています。この「ちり」がないと作れないそうです。そこからどうやってきれいな形を作ることができるのか絵でわかりやすく教えてくれます。いろいろな形の結晶も写真でたくさん紹介しています。

『ふゆとみずのまほうこおり (ふしぎいっぱい写真絵本38)』片平孝 写真・文 (ポプラ社) J45 緑
 水は0度より冷えると氷になり、0度よりあたたかると水にもどります。
 このことがわかるように、いろいろな氷の形を写真で見せてくれます。
 とけかかった氷がもようになっている様子は「アイスフラワー (こおりの花という意味)」と呼ばれていてとてもきれいです。
 木に波しぶきがかかったところがこおったものや、まるく水に浮かんだ「ハス葉氷」など、面白い氷の姿が楽しめます。

